

令和3年度 宮崎大学セグメント情報の詳細について

現在、開示すべきセグメント情報については、国立大学法人会計基準に基づき、附属明細書において「附属病院」「附属学校」「その他」「法人共通」に区分してセグメント情報を開示しております。

この度、本学の会計マネジメント改革の取組として、ステークホルダーの皆さまへ財務情報をよりご理解いただくため、学部・研究科ごとのセグメント情報および非財務情報を公開することにいたしました。

なお、公開した内容については、本学の会計監査人からの監査を受けておりません。何卒ご理解のほどどうぞよろしくお願いいたします。

(単位：円)

区分	教育学部・ 教育学研究科	医学部・ 看護学研究科	工学部・ 工学研究科	農学部・ 農学研究科	地域資源創成学部・ 地域資源創成学研究科
業務費用					
業務費	979,362,567	3,108,794,711	1,739,410,224	2,415,477,445	387,481,282
教育経費	90,269,175	175,152,752	213,090,928	450,226,039	51,286,457
研究経費	21,811,780	335,548,404	152,981,034	163,057,359	37,717,155
診療経費	-	-	-	-	-
教育研究支援経費	-	-	-	-	-
受託研究費	1,777,450	553,981,691	84,828,167	212,088,486	6,479,585
共同研究費	-	65,694,421	85,409,718	74,704,813	503,500
受託事業費等	5,187,390	70,680,833	3,675,410	15,019,108	214,356
人件費	860,316,772	1,907,736,610	1,199,424,967	1,500,381,640	291,280,229
一般管理費	24,529,964	77,520,038	31,098,333	54,840,881	13,864,636
財務費用	-	50,359	947,335	-	-
雑損	-	282,000	564,000	-	-
小 計	1,003,892,531	3,186,647,108	1,772,019,892	2,470,318,326	401,345,918
業務収益					
運営費交付金収益	712,447,718	2,264,440,576	1,010,805,413	1,232,567,067	273,133,040
学生納付金収益	325,221,427	464,616,720	1,055,560,257	792,228,681	229,664,056
附属病院収益	-	-	-	-	-
受託研究収益	1,777,450	632,325,972	84,814,358	212,077,066	6,479,585
共同研究収益	-	70,077,603	87,528,882	74,404,818	503,500
受託事業等収益	5,187,390	99,722,698	3,670,805	15,852,797	214,356
寄附金収益	8,235,998	382,095,011	47,151,505	41,968,580	21,387,894
財務収益	-	-	-	-	-
雑益	4,515,140	51,624,385	33,527,160	253,821,002	1,255,625
その他の収益	40,681,148	179,863,939	156,891,694	223,755,569	33,255,885
補助金等収益	34,454,268	38,967,303	98,214,527	158,475,212	30,895,997
施設費収益	-	-	-	-	-
資産見返負債戻入	6,226,880	140,896,636	58,677,167	65,280,357	2,359,888
その他	-	-	-	-	-
指定管理料収益	-	-	-	-	-
小 計	1,098,066,271	4,144,766,904	2,479,950,074	2,846,675,580	565,893,941
業務損益	94,173,740	958,119,796	707,930,182	376,357,254	164,548,023
土地	2,622,962,946	2,227,268,699	2,920,270,343	10,525,701,471	197,439,661
建物	1,102,611,320	3,549,496,491	1,468,502,083	2,702,732,893	96,050,427
構築物	18,678,816	248,683,993	107,831,483	255,784,761	425,101
現金及び預金	-	-	-	-	-
その他	21,143,915	532,622,685	172,733,638	723,144,503	18,330,655
帰属資産	3,765,396,997	6,558,071,868	4,669,337,547	14,207,363,628	312,245,844

区分	農学工学総合研究科	医学獣医学総合研究科	産学・地域連携センター	教育・学生支援センター	国際連携センター
業務費用					
業務費	11,181,000	11,539,900	346,974,255	47,159,783	99,361,329
教育経費	11,181,000	11,539,900	40,796,553	16,518,832	39,687,464
研究経費	-	-	89,257,332	1,593,122	843,116
診療経費	-	-	-	-	-
教育研究支援経費	-	-	-	-	-
受託研究費	-	-	29,750,808	-	-
共同研究費	-	-	4,726,253	-	1,966,498
受託事業費等	-	-	51,069,621	-	5,862,135
人件費	-	-	131,373,688	29,047,829	51,002,116
一般管理費	-	-	11,878,173	278,188	2,562,920
財務費用	-	-	-	-	-
雑損	-	-	-	-	-
小計	11,181,000	11,539,900	358,852,428	47,437,971	101,924,249
業務収益					
運営費交付金収益	200,000	-	47,636,555	23,679,995	15,829,041
学生納付金収益	36,199,527	75,136,671	-	-	-
附属病院収益	-	-	-	-	-
受託研究収益	-	-	32,455,827	-	-
共同研究収益	-	-	4,726,253	-	1,966,498
受託事業等収益	-	-	51,687,849	-	5,862,135
寄附金収益	-	-	23,319,932	1,245,119	15,689,309
財務収益	-	-	-	-	-
雑益	-	114,000	41,595,817	278,188	6,255,330
その他の収益	-	-	91,482,054	62,764	319,757
補助金等収益	-	-	45,922,519	-	-
施設費収益	-	-	-	-	-
資産見返負債戻入	-	-	45,559,535	62,764	319,757
その他	-	-	-	-	-
指定管理料収益	-	-	-	-	-
小計	36,399,527	75,250,671	292,904,287	25,266,066	45,922,070
業務損益	25,218,527	63,710,771	-65,948,141	-22,171,905	-56,002,179
土地	-	-	344,371,502	-	-
建物	-	-	394,741,998	4,433,045	98,646,514
構築物	-	-	2,208,294	-	12,656,340
現金及び預金	-	-	-	-	-
その他	1,346,000	1,128,000	267,164,701	3,317,354	555,320
附属資産	1,346,000	1,128,000	1,008,486,495	7,750,399	111,858,174

区分	フロンティア 科学総合研究センター	情報基盤センター	附属図書館	安全衛生保健センター	産業動物防疫センター
業務費用					
業務費	335,824,343	279,085,753	280,798,777	79,825,723	231,079,446
教育経費	3,814,494	851,964	-	10,716,037	2,020,527
研究経費	107,119,212	472,070	-	149,440	53,347,537
診療経費	-	-	-	-	-
教育研究支援経費	-	199,034,148	120,320,937	-	75,496
受託研究費	15,497,630	278,307	45,057,460	-	70,646,327
共同研究費	34,478,810	-	16,767,138	-	14,682,588
受託事業費等	20,290	-	13,076,090	-	21,453,068
人件費	174,893,907	78,449,264	85,577,152	68,960,246	68,853,903
一般管理費	9,029,681	156,606,116	10,598,510	31,319,003	-
財務費用	-	4,607,479	224,895	-	-
雑損	-	-	-	-	-
小 計	344,854,024	440,299,348	291,622,182	111,144,726	231,079,446
業務収益					
運営費交付金収益	110,667,681	121,796,688	47,796,332	42,433,658	36,075,700
学生納付金収益	-	-	-	-	-
附属病院収益	-	-	-	-	-
受託研究収益	15,497,631	-	48,223,112	-	70,761,325
共同研究収益	34,478,810	-	16,767,139	-	14,682,588
受託事業等収益	20,290	-	619,448	-	56,202,458
寄附金収益	27,667,022	-	3,793,235	-	2,221,880
財務収益	-	-	-	-	-
雑益	5,617,655	29,680,499	5,269,399	294,285	9,885,855
その他の収益	42,977,011	18,856,553	39,978,266	1,005,468	29,073,376
補助金等収益	13,535,215	-	5,475,783	-	15,597,926
施設費収益	-	-	-	-	-
資産見返負債戻入	29,441,796	18,856,553	34,502,483	1,005,468	13,475,450
その他	-	-	-	-	-
指定管理料収益	-	-	-	-	-
小 計	236,926,100	170,333,740	162,446,931	43,733,411	218,903,182
業務損益	-107,927,924	-269,965,608	-129,175,251	-67,411,315	-12,176,264
土地	427,227,359	121,677,931	560,629,178	44,768,295	109,050,976
建物	629,122,401	115,183,798	986,835,826	28,803,965	215,818,678
構築物	5,150,780	2,451,751	8,972,182	2,731,205	49,881
現金及び預金	-	-	-	-	-
その他	144,125,234	398,341,671	2,360,856,635	3,556,084	91,289,598
附属資産	1,205,625,774	637,655,151	3,917,293,821	79,859,549	416,209,133

区分	多言語多文化 教育研究センター	IR推進センター	附属病院	附属学校	事務局
業務費用					
業務費	95,959,289	10,809,539	25,403,354,125	710,549,032	1,556,787,390
教育経費	6,870,652	1,655	77,830,208	151,216,900	157,220,502
研究経費	4,172,988	260,486	180,802,245	-	22,057,347
診療経費	-	-	14,745,748,972	-	-
教育研究支援経費	-	-	-	-	8,926,261
受託研究費	-	-	51,381,049	-	9,013,698
共同研究費	-	-	3,646,567	-	1,162,548
受託事業費等	-	-	103,030,108	-	2,325,151
人件費	84,915,649	10,547,398	10,240,914,976	559,332,132	1,356,081,883
一般管理費	2,623,013	2,351,433	118,269,767	3,276,307	324,758,869
財務費用	-	-	50,104,651	-	-
雑損	-	-	10,000	-	-
小計	98,582,302	13,160,972	25,571,738,543	713,825,339	1,881,546,259
業務収益					
運営費交付金収益	40,136,895	947,459	2,569,973,697	439,837,520	282,588,392
学生納付金収益	-	-	-	3,451,100	-
附属病院収益	-	-	20,827,895,725	-	-
受託研究収益	-	-	51,381,053	-	9,013,376
共同研究収益	-	-	3,646,567	-	1,162,581
受託事業等収益	-	-	106,985,371	-	2,326,651
寄附金収益	1,858,303	-	8,073,608	21,731,001	16,863,714
財務収益	-	-	-	-	-
雑益	1,608,300	-	60,718,042	16,499	181,092,768
その他の収益	434,763	1,801,433	2,764,304,753	64,300,929	105,000,861
補助金等収益	-	-	2,321,120,314	55,343,394	21,185,299
施設費収益	-	-	-	611,821	-
資産見返負債戻入	434,763	1,801,433	203,550,500	8,345,714	83,815,562
その他	-	-	-	-	-
指定管理料収益	-	-	239,633,939	-	-
小計	44,038,261	2,748,892	26,392,978,816	529,337,049	598,048,343
業務損益	-54,544,041	-10,412,080	821,240,273	-184,488,290	-1,283,497,916
土地	-	-	1,353,820,459	5,256,541,847	1,879,377,473
建物	24,890,405	-	8,029,506,185	825,539,870	1,277,490,439
構築物	-	-	180,618,532	210,887,833	464,275,279
現金及び預金	-	-	-	-	-
その他	1,168,930	3,119,967	8,812,940,584	15,591,067	2,131,756,858
附属資産	26,059,335	3,119,967	18,376,885,760	6,308,560,617	5,752,900,049

区分	小計	法人共通	合計
業務費用			
業務費	38,130,815,913	-	38,130,815,913
教育経費	1,510,292,039	-	1,510,292,039
研究経費	1,171,190,627	-	1,171,190,627
診療経費	14,745,748,972	-	14,745,748,972
教育研究支援経費	328,356,842	-	328,356,842
受託研究費	1,080,780,658	-	1,080,780,658
共同研究費	303,742,854	-	303,742,854
受託事業費等	291,613,560	-	291,613,560
人件費	18,699,090,361	-	18,699,090,361
一般管理費	875,405,832	-	875,405,832
財務費用	55,934,719	-	55,934,719
雑損	856,000	-	856,000
小計	39,063,012,464	-	39,063,012,464
業務収益			
運営費交付金収益	9,272,993,427	-	9,272,993,427
学生納付金収益	2,982,078,439	-	2,982,078,439
附属病院収益	20,827,895,725	-	20,827,895,725
受託研究収益	1,164,806,755	-	1,164,806,755
共同研究収益	309,945,239	-	309,945,239
受託事業等収益	348,352,248	-	348,352,248
寄附金収益	623,302,111	-	623,302,111
財務収益	-	9,762,109	9,762,109
雑益	687,169,949	-	687,169,949
その他の収益	3,794,046,223	-	3,794,046,223
補助金等収益	2,839,187,757	-	2,839,187,757
施設費収益	611,821	-	611,821
資産見返負債戻入	714,612,706	-	714,612,706
その他	-	-	-
指定管理料収益	239,633,939	-	239,633,939
小計	40,010,590,116	9,762,109	40,020,352,225
業務損益	947,577,652	9,762,109	957,339,761
土地	28,591,108,140	-	28,591,108,140
建物	21,550,406,338	-	21,550,406,338
構築物	1,521,406,231	-	1,521,406,231
現金及び預金	-	7,093,023,990	7,093,023,990
その他	15,704,233,399	-	15,704,233,399
附属資産	67,367,154,108	7,093,023,990	74,460,178,098

注)1. 各学部及び各研究院で業務を行う教職員は、各学部にも所属しており、この教職員の人件費は各学部一括して計上しております。

よって各研究院には研究院教育を担当する教職員の人件費は計上しておりません。

注)2. 財務収益のうち、「法人共通」(9,762,109円)は、受取利息であります。附属資産のうち、「法人共通」(7,093,023,990円)は、現金及び預金であります。

注)3. 附属病院セグメントにおける運営費交付金収益は、附属病院に関し国が予算精算した運営費交付金を収益化した場合の相当額と939,571,697円の差がありますが、これは、国の予算精算額に加えて、附属病院における承継職員に対する退職手当167,601,668円を計上したものの、建物新設設備費として1,099,670円計上したものの、及び「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針の改定による附属病院人件費の見直しによる影響額770,870,359円であります。附属病院に関し国が予算精算した運営費交付金のうち、収益化額は1,630,402,000円であります。

注)4. 附属学校セグメントについて、附属幼稚園を除いた附属小学校及び附属中学校では、義務教育のため授業料等は徴収しておらず、上記の業務損益になっております。

令和3年度の主な教育研究等の成果・実績等

【教育学部・教育学研究科】

●連携協定を締結した五ヶ瀬町との取組

教育学部と五ヶ瀬町教育委員会間で締結した連携協力（令和2年5月）に基づき、学部学生がへき地・小規模学校や教育委員会の取組を体験的に学習する機会を設けた他、以下の取組を行った。

- ・大学側の支援：町内の小中学校の授業研究会や教員研修等における指導助言（4回）、学部学生による児童の学習活動補助（4回）、小学校の修学旅行として、本学の講義や施設見学、学食体験、五ヶ瀬町PR活動を実施した。
- ・五ヶ瀬側の支援：へき地教育と小規模校体験として、五ヶ瀬町立学校オープンスクールに学生と教員50名が参加。五ヶ瀬町の小学校教諭と教育委員会指導主事を講師に迎えて、実践教育発表会を開催した。
- ・教育実習生に発熱等の症状が出た場合の対応マニュアルを作成したことにより、実習校の懸念を軽減するとともに更なる信頼関係を築くことができ、充実した実習へとつながった。

●入学者確保のための取組

令和4年度入試（令和3年度実施）における募集単位の改革により、新たに小中一貫教育コース小学校主専攻に「学校推薦型選抜（宮崎県教員希望枠）」を設け、15名の募集人員に対し29名の志願者があった（内25名が県内出身者）。因みに、先行する教職実践基礎コースの同選抜においては、募集人員5名に対する志願者15名全員が県内出身者であったことから、県内における本選抜の認知度向上が確認された。

宮崎県内の教員を志望する高校生を対象とした「教師みらいセミナー」を継続して主宰したが、受講者数とその内の本学部入学志願者数の変遷は次の通りである。入学志願者数が上昇傾向にあることから、本セミナーの有効性が確認された。

実施年度	受講者数	入学志願者数	実施年度	受講者数	入学志願者数
H28	165	95	R 1	194	101↑
H29	129	79	R 2	229	140↑
H30	192	85↑	R 3	223	140

【医学部・看護学科研究科】

●医師の養成・確保、県内定着へ向けた取組

医学科入試では、令和4年度入試（令和3年度実施）から従来の地域枠と地域特別枠の定員25名を、地域枠A B Cと改め、定員を15名増の40名へ変更した。地域枠全ての学生には、キャリア形成プログラムが適用され、臨床研修から9年間県内の医療機関に勤務することとなり、宮崎県内の医師確保につながる制度を確立した。

なお、地域枠Cは、全国公募とし、全国から優秀な学生を確保するため、パンフレットを作成し、全国の高校、予備校へ送付した。

●研究業績

・特筆すべき研究成果として、「Best Researcher Award」、「Young Professional Award」、「第13回日本不安症学会学術大会 若手優秀演題賞」、「日本病理学会100周年記念 病理学研究新人賞」、「日本病理学会学術研究賞」を受賞した。

・研究論文が国際誌「Circulation」、「Blood」、「Nature Communications」、「JACC: Cardiovascular Imaging」、「PNAS」等に掲載された。

・以下の研究業績について、報道発表を行った。（発表でのタイトルを記載）

「深紫外線LEDによる新型コロナウイルス変異株の不活化効果を確認」

「新型コロナ感染を抑制する生体内因子の発見」

「謎の寄生虫「芽殖孤虫」のゲノムを解読」

「ウイルスの感染力を高め、日本人に高頻度な細胞性免疫応答から免れる SARS-CoV-2 変異の発見」

「脳の萎縮のメカニズムを解明」

「アトピー性皮膚炎の増悪化を阻止する仕組みを発見」

「SARS-CoV-2 B.1.617 系統（俗称「インド株」）のL452R 変異とE484Q 変異は中和抗体感受性の低下において、相加的な抵抗性を示さない」

「成人 T 細胞白血病リンパ腫の多段階発がん分子メカニズムを解明」

「冠動脈疾患治療における新たなエビデンス」

「成人T細胞白血病リンパ腫（ATL）のゲノム異常の全体像を解明」

「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の感染源特定について」

「抗凝固療法では腎機能や、投薬開始からの時間の経過によって出血リスクが変化する」

【工学部・工学研究科】

●豚の体重が見えるメガネ

工学部の研究グループにより、豚の体重を瞬時に可視化する装置「豚の体重が見えるメガネ」が開発され、養豚農家の作業効率化が期待される。この技術は、農林水産省の「2021年農業技術10大ニュース」に選定され、国内だけでなく、海外ドイツのメーカーとの共同研究へ繋がった。カメラの精度を高め、今後の製品化に向けた研究開発を行っている。

●広報活動を拡充

大学の学生募集広報サポート会社のプロムページが企画する夢ナビライブに参画し、工学部教員の最先端研究の講義ビデオを全国高校生に画像配信した。また、工学部HPにバナーを追加した。高校生の夢ナビライブの動画視聴数は令和3年3月から12月の期間で709件あり、うち関東圏が32.6%と入学者数が多い九州・沖縄地域の19.5%よりも高く、広い範囲への情報発信ができています。

また、工学部PRのために地元テレビ放送局で令和3年12月に36回、CMを放映した。共通ストに合わせて、工学部独自で令和4年1月16, 17日の2日間、宮崎日日新聞にカラー新聞広告を出稿した。

【農学部・農学研究科】

●産学官共同・連携研究の推進

農学部は、現在、農林水産省九州農政局や水資源機構筑後川局など計14の連携協定を締結している。また、全学が締結している連携協定のうち、特に農学部が関連している協定は、JA宮崎経済連や農研機構・宮崎県などを含め計12ある。新型コロナウイルス感染症蔓延のために、例年通りの連携研究ができなかったが、その中でもJA宮崎経済連との共同研究については、県の防疫対策課にて打ち合わせを行った（令和3年8月19日）。また、農研機構・宮崎県・宮崎大学の三者による包括連携協定については、協議会を定期的で開催した（令和3年8月20日）。その他、科研費以外の10,000千円以上の大型外部資金は、受託研究7件、補助金3件であった。

また、共同研究講座を設置し、5年間で40,000千円（年間8,000千円）を受け入れ実施して

いる。

●地域の知の拠点としての社会貢献活動

フィールド科学教育研究センターにおいては、例年、各フィールドの特色を生かした公開講座や開放事業を行っているが、今年度については、コロナの影響により、例年通りには実施できていない状況である。このような制限された状況下ではあるが、公開講座「林業基礎体験講座」（令和3年6月27日）/「ミツバチの世界を知ろう」（令和3年6月26日）、ツリークライミングツリークライマー講習会（7月22～25日、10月16～17日）、親子公開講座 海の学校（令和3年8月7日）等の取組を実施した。

農業博物館においては、「ひらめき☆ときめきサイエンス事業」（日本学術振興会）の助成により、科学の面白さを感じてもらおうプログラムを実施した（令和3年10月16日）。地域の文化資源の管理・研究・教育普及を担う学芸員の養成（農学部学生13名）を行った。

中核人材養成事業においては、衛生、臨床、畜産分野において技能の向上を目的としたリカレント教育を実施した（WEB開催も含む）。実際の開講講座数は17講座、総受講者数は1393名、受講証明書授与者数（12時間以上受講）は48名であった。また、令和4年度の日本中央競馬会畜産振興事業にリカレント教育継続のために応募したところ、幸運にも採択された。これらの事業を通して、畜産技術指導者、産業動物獣医師等のリカレント教育に大きく貢献した。

【地域資源創成学部・地域資源創成学研究科】

●寄附講座（地域経営学講座）の設置と教育活動

一般財団法人つの未来まちづくり推進機構による寄附講座（地域経営学講座）の開設により教員2名による都農町の産業・地域づくりに関する臨地実習（「地域探索実習Ⅱ」1年後期）および「地域学基礎」（1年前期必修）における「つの学」ゲスト講義、都農町内におけるインターンシップ、新設科目としてPBLを開設し、地域の課題を探究するとともに実践的な活動に取り組んだ。

●社会連携・地域連携について

山崎有美研究室（同上）と株式会社Milk Lab.（宮崎市）との共同研究において、宮崎県産きんかん由来β-クリプトキサンチンの加工特性解析及び腸管吸収能評価を実施し、その成果とし

て「優乳甘酒（ゆうにゅうあまざけ）きんかん」が開発された。

また、土屋有教員が役員を務める宮崎大学発ベンチャー「株式会社Smolt」の取り組みが、科学技術振興機構の「STI for SDGs」アワード・科学技術振興機構宇理事長賞を受賞し、気候変動にも対応した水産資源の保全（SDGs目標13・14）に寄与するものとして高い評価を得た。

【農学工学総合研究科】

●次世代研究者挑戦的研究プログラム

若手研究者の人材育成に関して、博士後期課程の学生が研究に専念できる環境を整備し、卓越した博士人材の育成や輩出を目指す国の補助事業である「次世代研究者挑戦的研究プログラム（公募：JST）」に採択(令和3年)され、農学と工学が融合する農学工学総合研究科の博士後期課程学生を対象に学生の実施する研究とキャリア開発・育成コンテンツを一体的にマネジメントし、様々なキャリアパスにおいて活躍できるトランスファラブルスキル（職種・地域・業界を超えて活用できる汎用性の高いスキル）と厳しい環境下でも負けない強さを身につけた次世代研究者の育成を推進することとした。本プログラムにおいて、10名の同研究科の博士課程学生に対し年額最大286万円／人を支給、学術研究に専念できる環境を提供することで、研究力の向上を目的としており、高い研究力を有する人材を育成して、本学の次世代のリーダーとなる若手研究者となるべき若手教員の雇用につながることを期待される。

【医学獣医学総合研究科】

●国費外国人大学生の優先配置を行う特別プログラムの採択について

文部科学省の2022-2024年国費留学生優先配置大学として「医学獣医学の有機的連携による心血管・腎臓病研究推進プログラム」が採択された。秋入学の国費留学生（博士課程）7名を毎年受け入れることになり、私費留学生または日本人学生と最先端の研究に従事し、自国に戻った後に、彼らがリーダーとなり、自国の心血管・腎臓病の研究・診療の水準を向上させ、国際的な拠点となることが期待されている。

【産学・地域連携センター】

●食と健康のイノベーション創出事業

「食と健康のイノベーション創出事業」において、「みやざき地頭鶏（むね肉）」中の機能性成分含有量の調査及び機能性表示食品届出の支援を行い、機能性関与成分であるイミダゾールジペプチドを含有する「みやざき地頭鶏（むね肉）」が「日常生活の一時的な疲労感を軽減する機能」があるとして機能性表示食品となり、生鮮食品では宮崎県で初の機能性表示食品となった。

●産学・地域連携センター「地域人材部門」の取組

高等教育コンソーシアム宮崎の下で、本学が中心となり県内高等教育機関の学長等で構成する「高等教育の未来像とその実現のための意見交換会」及びそれを踏まえた「高等教育の未来像とその実現に向けたWG」を新設して意見交換の場を設けた。この場では、VUCAの時代に将来を見据えて新しい価値を創造する人材の育成や、様々な社会課題の解決を図る人材の育成など、今後益々果たすべき高等教育機関の役割が大きくなっていく一方で、18歳人口の大幅な減少といった高等教育機関の運営に係る課題も顕在化している状況下における今後の具体的な取組方策、それを効果的かつ有効に実施していくためのコンソーシアムの組織力強化について議論を深めた。この議論の成果を踏まえ、第4期中期目標期間においては、宮崎県産業人材育成プラットフォームと連携して求める人材像の明確化や地域の提供できる教育資源の活用を図るとともに、本学主導のもと、県内高等教育機関と連携して、リベラルアーツや未来共創学、地域学などについて研究する場を設け、連携による新しい学びの創出を実現していくこととした。

【教育・学生支援センター】

●高等教育コンソーシアム宮崎との連携

公募型卒業研究テーマ事業の企画を行い、宮崎の課題解決に貢献した。宮崎大学を含む8機関が22件の研究テーマを採択し、研究成果発表会ではその中の10件について口演発表がおこなわれた（令和4年3月5日、Zoom開催、参加者87名）。公募型卒業研究テーマ事業の研究成果発表会ではアンケート回答者の92.3%が課題解決の到達度について「よい」あるいは「たいへんよい」と回答し、この結果は、本事業に対する関係者の満足度が非常に高いことを示している。

同FD事業では、公募型卒業研究テーマをはじめとする社会連携によるプロジェクト型学習の

効果的な制度運営と学生の指導に関する研修会を次年度開催に向けて企画した。その前段として、本年度は公募型卒業研究テーマ事業に関わる教員及びテーマ提案者との意見交換といくつかの事例に関する課題解決の経過観察を試み、課題解決プロセスに関する情報収集をおこなった。

●とって元気！宮大チャレンジ・プログラムコーディネート

将来、社会でリーダーとして活躍する宮大生の企画力や実施力を高めるための取組として「とって元気！宮大チャレンジ・プログラム」を実施している。

令和3年度は、全10件の応募企画（うち8企画が採択）のコーディネートを行い、企画書の書き方から経費の使い方、各プロジェクトの進捗状況について定期的に必要な指導を行った。その結果、令和4年2月の成果発表会において、学長賞1件、優秀賞2件が選ばれた。

【国際連携センター】

●オンライン留学プログラム

令和3年度については、協定校のプログラムに加え、本学学生が参加しやすい形態を模索し、学生の語学レベルや都合の良い時間が選択可能なプログラム等の提供を検討した上、大手の語学会社と協議を重ね、個々の学生にフィットする提携プログラムを提供することができた。また、昨年度から、海外で学修を行う学生に対する支援「海外学修支援制度」を拡大し、実際の渡航ができない場合のオンライン留学プログラムに対しても適用した結果、10プログラム47件に対して支援ができたことから、次年度以降、さらに充実したプログラムの提供と参加者への周知に努めたい。

- ・令和2年度実績（オンライン留学のみ）：8件（145,600円）
- ・令和3年度実績（オンライン留学のみ）：47件（462,950円）

●トビタテ！留学JAPAN

宮崎県内の産学官金の関係機関によって構成される「みやざきグローバル人材育成協議会」では、「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム 地域人材コース（宮崎県版）」の取組みの一つとして、県内の高校生・大学生を主な対象に、海外への意識向上を図るため、『ミヤザキグローバルフェア』を平成29年度から開催し、5回目となる今回は、オンラインによって、

「コロナ禍の今だからこそ考えてみたい！世界との繋がり方、地域とのかかわり方」をテーマに、認定NPO法人E-educationからの基調講演と参加者同士で交流を図るクロストークを実施した。高校生37名・大学生5名の参加者は、本制度の留学経験者OB6名がクロストークのファシリテーターを担うそれぞれのグループに分かれ、境遇の重なる参加者と海外への思いを共有するとともに、積極的な意見交換が繰り返された。また、文部科学省等が実施している『トビタテ！留学JAPAN(全国版)』に応募する学生の計画書作成及び面接の指導を行った。結果、令和3年度はトビタテ留学JAPAN(全国版)では2名の学生がトビタテ留学JAPAN(全国版)に合格した。また、コロナ禍ではあるものの、本年度はケンブリッジ大学、ウイスコンシン大学等計4名をトビタテ生として送り出した(なお、宮崎大学のトビタテ留学JAPAN通算派遣数は59名、全国27位)。宮崎大学の同制度合格率は約66%で、全国平均(30%)より有意に高い数値を残している。

【フロンティア科学総合研究センター】

●学内共同教育研究施設等の再編

本学の先端的生命科学研究として重要な課題である生理活性ペプチド研究や、線虫新規生理活性ペプチドを発見し、論文を4本発表することができた。また、亜鉛添加による新しいアッセイ法を開発した。

研究サポート支援のなかでもFACS フローサイトメトリー, FACS cell-sorting オペレーションに関して利用者へのサポートを充実させた。主な内容として、「フローサイトメトリー講習会」を企画・提供し、細胞の性状解析および細胞分取をスムーズに行えるように実験支援することで、共用装置の利用者拡大に着実な成果を上げた。また、フローサイトメトリー利用者のニーズに応じて、データベースに基づいた実験条件の策定を全面的にバックアップすることで、効率的なデータ収集に成果を上げた。

【情報基盤センター】

●情報セキュリティ教育及び情報倫理教育の実施

全一年生必須の基礎教育科目である「情報・数量スキル」において、情報セキュリティ及び情報倫理に関する動画コンテンツを情報基盤センターの教員が作成・提供し、情報セキュリティ教育の徹底を図った。

また、宮崎大学の全ての構成員を対象にe ラーニング形式による情報セキュリティ対策講習を実施した。受講率は、教職員100%、学部生98.7%、大学院生92.1%と非常に高かった。

【附属図書館】

● イベントや展示について

令和3年7月には、宮崎県が主催した国文祭・芸文祭みやざき2020の一環として、「国文祭・芸文祭みやざき2020×宮崎大学附属図書館みやざき大歌会～今日、君も短歌を好きになる。」が開催され、東直子先生、田中ましろ先生によるトークイベントや、県内中高大学生による歌会、トークイベント講師の著書等の展示を行った。

令和3年9月には、医学分館において「超微量の黄体形成ホルモン放出因子（LH-RH）の構造決定」に代表される松尾壽之名誉教授の医学分野に多大な影響を与えた多くの業績を称える展示ブースが設置され、そのオープニングセレモニーが開催された。

令和3年10月には、宮崎県立図書館の巡回展「若山牧水」を開催し、解説パネルのほか、本学所蔵の若山牧水に関する資料を展示した。

【安全衛生保健センター】

● 新型コロナワクチン職域接種

令和3年7月8日（木）～8月25日（水）に、本学学生、教職員及び近隣大学の学生等を対象とした新型コロナワクチン職域接種を実施した。安全衛生保健センター医師、保健師、看護師が主要スタッフとして携わり、医学部附属病院の医師、看護師及び事務職員の協力の下、ワクチンを無駄にするといったトラブルも起きず、スムーズに運営ができ、合計9,642名に接種を行った。また、新型コロナワクチン職域接種実施の際、高等教育コンソーシアム宮崎と連携し、ワクチン接種を希望する他大学の教職員及び学生にもワクチン接種を行った。

【産業動物防疫リサーチセンター】

● 外部受託検査の実施

産業動物防疫リサーチセンターにおいては、外部受託検査の推進（牛白血病、牛乳房炎、ピロプラズマ、水質検査等）及び地域の畜産振興につながる研究の推進（牛白血病の診断・清浄化支援等）するため、平成28年度より学外から牛白血病診断、牛ピロプラズマ症、乳牛の乳房

炎検査等の動物に係る感染症検査及び細菌培養・薬剤感受性検査の受託検査を開始し、令和2年度の受託件数は20,097件、検査収入は23,920千円だったが、令和3年度には26,334件、検査収入は32,937千円となりさらなる増収が図られた。実施する外部受託検査を通じ、中九州及び南九州における経済のリーディング産業である畜産業の持続的かつ安定経営を支援することで、地域の活性化に大きく貢献した。また、宮崎市保健所の認可を受け、医学部附属病院からの委託による検体検査業務や、安全衛生保健センターと連携した学内関係者の病原体遺伝子検査（PCR検査）を令和2年9月から開始した。令和2年度は435件、令和3年度は807件の検査を実施し、増収に繋がっている。

【多言語多文化教育研究センター】

●宮崎大学履修証明プログラム

日本語教育分野において、文科省や国が推進するリカレント教育として、「日本就職を目指す高度外国人・留学生」と「日本語教育人材」の両方に対して、社会に開かれた履修証明プログラムとして実践しているのは国公立の中でも宮崎大学が唯一である。JICAとバングラデシュ政府機関から、現地協定校と民間企業との連携事業体で継承した高度ICT 人材育成事業「B-JET： Bangladesh ICT Engineers' Training Program」について、渡日前日本語教育となる宮崎大学履修証明プログラム「外国人ICT 技術者育成プログラム (B-JET) Basic Course」を令和3年10月～令和4年2月（5か月）に全てOnline で実施し、29名全員が修了した。

【IR 推進センター】

●大学評価コンソーシアムでの取組

IR関連団体である大学評価コンソーシアムにおいて、専任教員がアドバイザーとして団体の運営に対して貢献している。また、兵庫教育大学のIR活動に関する外部評価委員、山形大学IR履修証明プログラム（IR担当者向け実践プログラム）の担当講師なども務めるなど、本学のIR活動を外部に向けて発信する取り組みを行った。

【附属病院】

●ICT基盤の整備状況

県内8病院（宮崎大学医学部附属病院、3県立病院、宮崎市郡医師会病院、千代田病院、善

仁会病院、古賀総合病院)の医療情報抽出インターフェース、および附属病院の健診データ抽出インターフェースは導入済みであるが、新型コロナウイルス感染拡大にともなう千年カルテの開発遅延により、実際の情報共有が困難になり、千年カルテを利用した医療情報の共有は中止し、他の手段を用いて医療情報の共有を行うこととした。令和3年12月より宮崎県病院局及び県立3病院との検討を開始し、電子カルテの機能を利用して紹介患者の診療情報の共有を実施し、令和4年1月に宮崎県病院局、県立3病院とオンライン会議を実施。令和4年度にプロトタイプを構築し、県立延岡病院、県立日南病院と試験的運用を開始し、令和6年度の電子カルテシステムリプレースに合わせて県立宮崎病院も含めて本格的な運用を開始するスケジュールとしている。

●新型コロナウイルスへの対応

本院では、宮崎県での感染状況を注視しつつ令和2年4月には1階東病棟を閉鎖してCOVID-19専用病棟として病床を拡充整備し、令和2年8月に一人目の陽性患者を受け入れ、10月には宮崎県新型コロナウイルス感染症重点医療機関と宮崎県新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関に指定された。令和4年3月時点で12床の受入病床を確保しており、宮崎県からの要請に基づき、令和4年3月までに66名の陽性患者を受け入れている。

また、国内の陽性患者確認後早い段階から、本院救命救急センターのスタッフを中心に、宮崎県コロナ対策調整本部(医療体制等整備担当)などに参加(令和2年度:延べ39人、1,622.51時間、令和3年度:延べ39人、924.92時間)し、軽症者の隔離療養や感染予防対策、地域の救急医療体制維持など、県内のCOVID-19診療体制の確立・維持に貢献した。加えて、本院の医師をはじめ医療スタッフを感染症指定医療機関へ多数派遣(令和2年度:延べ25人、4,283.25時間、令和3年度:延べ14人、1,326.00時間)し、継続して地域のCOVID-19対策を支えている。

【附属学校】

●附属小・中学校におけるICTを活用した学習指導事例

附属小学校においては、令和2年度は第5学年にてロイロノート(※)を活用した先導的な授業を行った。令和3年2月10日に実施した校内授業研究会においても、活用を図った授業の提案を行っており、この様子は大学YouTubeにて公開し、県内の公立小学校及び県・市町村教

育委員会に周知した。

令和3年度は対象を全学年に拡大し、ロイロノートを活用した授業を行った。第3学年の算数の授業ではプログラミング学習、第5学年の音楽では、ソフトを用いて曲を変奏し、ロイロノートで共有する、等といった授業を行い、それらの様子は公開研究会等（オンラインを含む）を通じて発信することで、ロイロノート活用を図った授業の提案を行った。

令和3年度は附属中学校においても、1年生から3年生までの授業でロイロノート、統計ツール等の様々なアプリを活用し授業を行っており、これらの事例は活用事例集としてまとめている。活動の実施状況や成果についても併せて活用事例集に掲載している。

※ロイロノート：ロイロノート・スクールは、タブレットを活用して、子どもたちからの発信を助け、共有、蓄積して、学び合うための授業支援クラウドツール（アプリ）。

【事務局】

●「ゆにのもり保育園」の設置

木花キャンパスでは、内閣府企業主導型保育助成事業により、株式会社宮崎エレベータサービスが「ゆにのもり保育園」を設置、令和3年11月に開園し、園児を受け入れている。設置に当たっては、令和元年5月に事業用定期借地権設定契約（令和30年までの30年間）を締結し、土地貸付料として3,808千円/年の収入であり、土地の有効活用が図られただけでなく、本学が「誰もが学びやすい、働きやすい環境」となることが期待される。